平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	簿記原理 (Principles of Bookkeeping)			授業コード	E031651
担当教員名	坂元　英毅			科目ナンバリングコード	E10601
配当学年	1	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	原則『簿記入門の単位を取得していること』が履修の前提条件です。また、出席率が講義回数の2/3を下回れば不合格とします(期末テストの受験はできません)。 本講義では毎回スマホアプリを使用します。**バッテリー切れや通信制限**に注意して臨んでください。これらのトラブルによる不利益には一切配慮しません。				
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(授業開始時の出欠確認と終了時のレポート提出が揃って初めて出席となります)。 2. 電卓を必ず持参してください。 3. 教科書を必ず購入してください。 4. 予習・復習を必ず毎回してください。 5. 授業で使用するスライドは、環境への配慮から個別配付はしません。各回終了後、データを提供しますので、各自でダウンロードもしくはプリントアウトしてください。				
教科書	渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義　3級商業簿記[平成30年度版]』中央経済社、2018年。				
参考文献及び指定図書	適宜指示します。				
関連科目	簿記入門、会社簿記、原価計算論A・B、管理会計論A・B、財務諸表論、監査論A・B、経営分析				

授業の目的	簿記入門の学習内容を土台にして、簿記入門で取り扱わなかった日商簿記検定3級の個別論点および財務諸表の作成を取扱い、日商簿記検定3級の出題範囲の学習を完成します。実際に検定試験を受験する学生や、会計学を専攻する意思のある学生の、今後の学習への土台を作ります。
授業の概要	様々な取引の処理や帳簿の記入方法、決算の処理を身に付けます。技術を習得する側面が強いため、簿記入門以上に演習に重点を置いて進めます。 また、一定範囲の学習ごとに習熟度の確認テストを実施します。結果については、その場あるいは次の授業でコメントします。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 商品売買に関連しない債権と債務 貸付金・借入金、未収入金・未払金の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復 (1h・1h)
第 2 週 ： 商品売買に関連しない債権と債務 立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復 (1h・1h)
第 3 週 ： 受取手形と支払手形 手形の種類、手形代金の取立て・支払い、手形の裏書譲渡と割引の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復 (1h・1h)
第 4 週 ： 受取手形と支払手形 受取・支払手形記入帳、手形貸付金・借入金について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復 (1h・1h)

第 5 週 : 有価証券 有価証券の取得と売却、利息と配当金の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第 6 週 : 固定資産 有形固定資産の取得と売却の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第 7 週 : 固定資産 有形固定資産の減価償却について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第 8 週 : 貸倒損失と貸倒引当金 貸倒れの意義と貸倒損失の処理、貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第 9 週 : 資本金と引出金 資本金の増加と減少の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第10週 : 収益と費用 収益と費用の種類、収益・費用の見越し・繰延べの処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第11週 : 伝票 仕訳帳と伝票の関係、3伝票制、伝票の処理について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第12週 : 財務諸表 決算手続きの流れ、試算表の作成について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第13週 : 財務諸表 棚卸表の作成と決算整理事項の処理、精算表の作成について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第14週 : 財務諸表 財務諸表の作成について理解します。	テキストの記述部分の読み込みと練習問題の反復（1h・1h）
第15週 : 総括 講義全体の総括と演習を行います。	練習問題の反復（2h・2h）
第16週 : 期末試験 15回までの講義内容を試験範囲とします。筆記用具、電卓以外は持ち込み不可です。	

	（1）授業の形式	「演習等形式」

授業の運営方法	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	簿記・会計の意義を理解し、演習に対して積極的に取り組んでいること。
【知識・理解】	簿記・会計の意義と簿記一巡の流れを理解していること。
【技能・表現・コミュニケーション】	日商簿記検定3級相当の技能を身に付けていること。
【思考・判断・創造】	個人商店における取引の特徴を理解して、会計処理を考察できること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	25点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	35点		10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			10点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	事後課題について積極的に取り組んでいるか、知識を身に着けているかを評価します。
発表・その他(無形成果)	授業中に実施する演習に対して積極的に取り組んでいるか、技術を身に付けているかを総合的に評価します。